

諸会議や打合せの見直しと地域との連携に取り組んだ実践

加茂郡白川町立白川中学校

1. 目標

本校では、以前より比較的退勤時間も早く、超過勤務時間も少ない方ではあるが、教員が多忙感を感じているところがある。生徒のために熱心に取り組む職員集団であり、学級経営や教科経営、校務分掌などにも一生懸命に取り組んでいる。職員の熱意ややりがい大切にしつつ、効率化や精選を図ることで、多忙感の解消を図り、ゆとりをもって生徒への対応や業務に取り組むことができるようにしていこうと考え取り組んできた。

2. 実践の内容

①主任会議や打ち合わせを週に1回から隔週での設定とすることにした。そのために、共有ネットワークサーバー内に連絡フォルダと打ち合わせファイルを作成して連絡内容を打ち込み、いつでも記入・閲覧ができるようにした。また、急ぎ確認したいことや知らせたいことなどは、メール配信システムの「すぐる」を活用して、職員にお知らせが届くようにしている。

②生徒の学力向上や教師の指導力向上のために、校内研究を充実させている。月に1回程度の部研も行っているが、その際に参観者に配布する資料は、ねらいや視点、本時の工夫点のみを簡単に記載したものにして、資料作成の時間よりも教材研究や準備のために時間を使うことができるようにしている。部研後の授業研究会も、空き時間や放課後に短時間で行うことを心掛け、参加できない場合には個別で行うようにしている。

③地域住民のつながりを大切に、スポーツ・文化活動の充実に力を入れている組織である「スポーツリンク白川」と連携し、16時40分までの部活動の後、夕方17時以降や土日、長期休業中の活動を「スポーツリンク白川」のクラブ活動として地域で行っている。このことによって、部活動を勤務時間内に終えることができ、週末も大会を除けば多くは参加しなくてもよいいため、超過勤務を減らすことにつながっている。

④通学距離が遠い生徒も多く、全校生徒の約7割がバス通学である。放課後、バスの発車時刻まで待たなければならない生徒の対応は、職員が分担をして行ってきた。そこで、学校地域共同活動本部に相談し、生徒たちの見守りをしていただける方を募っていただき、「放課後未来塾」として生徒の見守り活動を行ってくださっている。「放課後未来塾」は本年度で3年目となり、活動期間も長く開設していただけるようになってきた。部活動同様に、職員の放課後の時間が確保しやすくなっている。

3. 評価結果

超過勤務時間は、本年度11月現在で平均31時間40分である。また、昨年度は年度当初の4月や成績処理等の忙しくなる6月に平均超過勤務時間が45時間を超えていたが、本年度は45時間を超える月は無くなっている。これらは、先にあげたような実践により、授業の空き時間や放課後の時間を有効に活用し、放課後に勤務時間を超える会議や部活動指導などが減ってきていることが要因であると考えている。また、職員一人一人の意識改革も進んできているのではないかと感じている。

4. 成果と課題

(1) 成果：会議の数や方法を見直したり、地域の協力を仰いで放課後等の時間を生み出したりすることで、時間的なゆとりを生み出すことができた。また、研究や研修の方法にも工夫を取り入れたことで、生み出された時間を授業の準備や教材研究・校務分掌の処理のための時間に充てることができるようになってきた。このことから、生徒一人一人に向き合う時間や丁寧な指導・対応を生み出すことにつなげることができた。

(2) 課題：職員の多忙感をより一層解消していくことができるように、行事・活動や会議の精選、校務分掌の見直しなどに取り組んでいくことが必要である。